

H24-B14-1深度43.19~43.62m 走向・傾斜 (No.157-追3) を変更、それに伴い条線方向 (No.157-追4) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-107頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

10. D-29~D-47破砕帯
性状一覧表(1/10)

157-追2で説明

No.157-追1, 157-追2で説明

・最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
・最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
・最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
なお、上記以外の観察方法で認定したものは、表中には書き込んでいない。

破砕帯名	深度 (m)	走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ	断層角礫	最新活動面	平滑さ	変位センス	性状	写真
H24-B14-1 (観45°)	43.19	N43E	77SE	31.4	0.3	無	有	33L	-	37	
H24-B13-4 (観45°)	8.57	8.88	(未測定)	3.8	1.1	無	-	-	-	8	
H24-B14-1 (観45°)	4.34	4.43	(未測定)	6.8	フィルム状	無	-	-	-	5	
H24-B14-1 (観45°)	4.80	4.90	N6W	74E	5.8	2.3	無	-	-	4	

凡例
 :最新活動面
 :破砕幅
 :断層ガウジ
 :粘土の存在物が認められる箇所
 *1:貫眼
 *2:試断片

【破砕幅】
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
 固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
 の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。
 【平滑さ】
 平滑：最新活動面が直線的なもの
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-107

破砕帯名	深度 (m)	走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ	断層角礫	最新活動面	平滑さ	変位センス	性状	写真	
												性状
H24-B14-1 (観45°)	21.83	22.57	N50E	69W	87.8	無	有	-	-	21		
H24-B14-1 (観45°)	4.0	有	有	有	0.4	無	-	-	-	38		
H24-B14-1 (観45°)	42.82	42.82	N22E	81W	18.4	有	有	有	5.5	無	42	
H24-B14-1 (観45°)	43.19	43.82	N37E	84W	31.4	有	有	有	0.3	無	43	
H24-B14-1 (観45°)	61.09	61.22	N20E	84W	8.7	有	有	有	フィルム状	無	61	
H24-B14-1 (観45°)	70.54	71.41	N19E	85W	58.2	無	無	無	-	-	71	

No.157-追3

157-追2で説明

No.157-追1, 157-追2で説明

N37E84W

No.157-追4

12R

データ拡充(左)

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 -(上記以外):データを取得していない箇所

凡例
 :最新活動面
 :破砕幅
 :断層ガウジ
 :断層角礫
 カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す

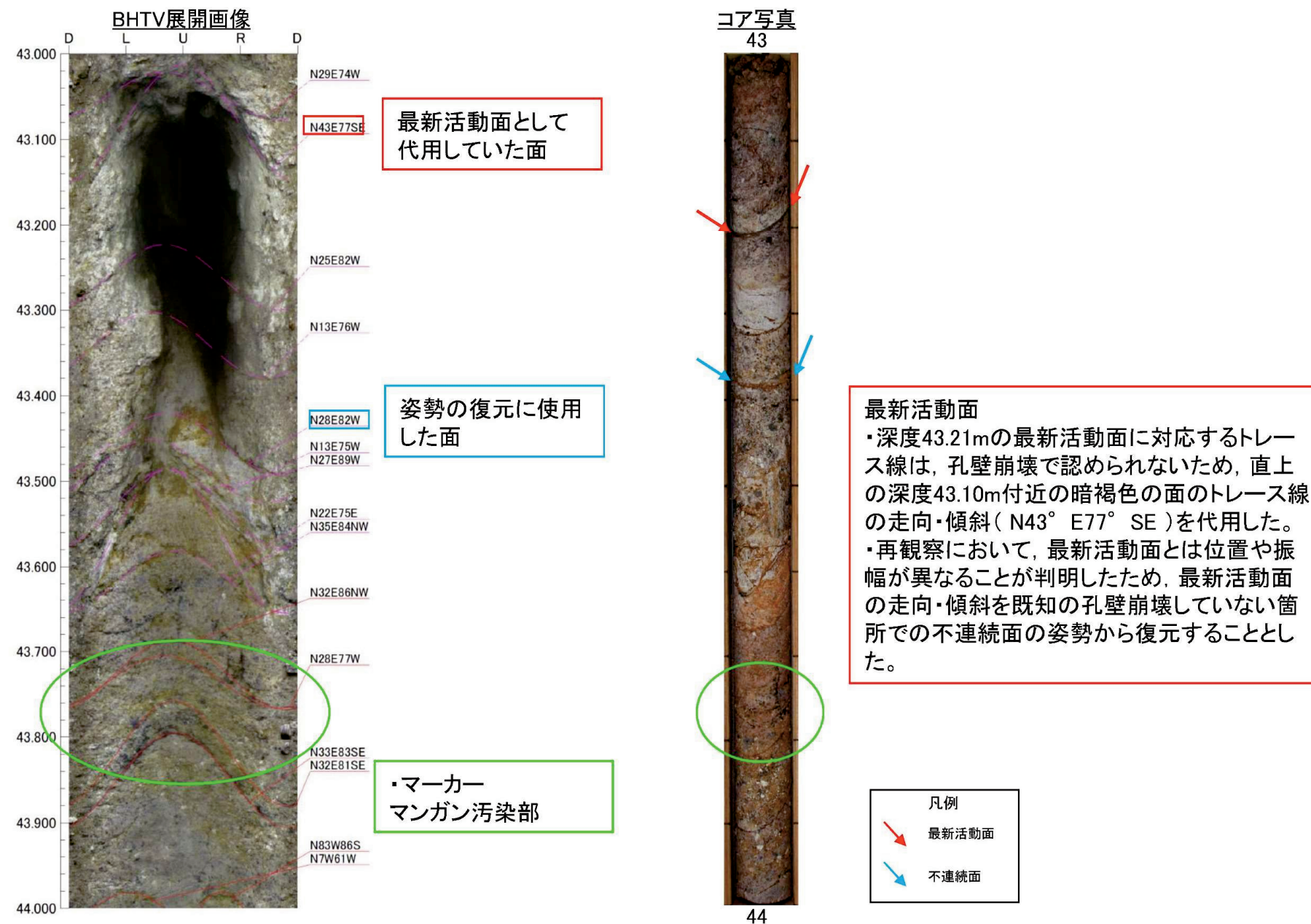
第7.4.4.423図(1) 破砕部性状一覧(H24-B14-1)

H24-B14-1深度43.19~43.62m 走向・傾斜 (No.157-追3) を変更

- 当該破碎部は孔壁崩壊によりBHTV画像で走向・傾斜を取得できないことから、近傍の不連続面の走向・傾斜を代用していた。最新活動面と当該不連続面が類似ではないため、既知の箇所から姿勢の復元を行った結果のN37E84Wに変更した。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-B14-1孔 深度43.19~43.62m)

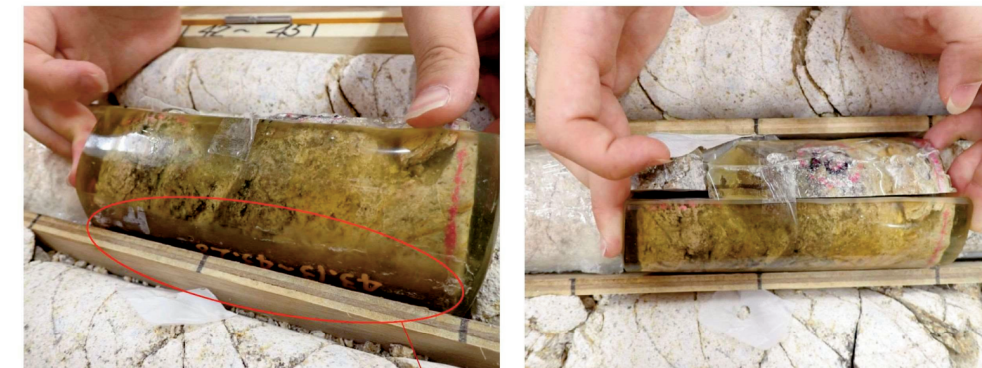
- H24-B14-1孔 深度43.19~43.62mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN43° E77° SEで代用したが、最新活動面と異なる位置の走向・傾斜であることが明らかになったため、走向・傾斜が既知の近傍の不連続面の姿勢から最新活動面の走向・傾斜の復元を行った。



H24-B14-1深度43.19~43.62m 走向・傾斜 (No.157-追3) を変更

- 当該破碎部は孔壁崩壊によりBHTV画像で走向・傾斜を取得できないことから、近傍の不連続面の走向・傾斜を代用していた。最新活動面と当該不連続面が類似ではないため、既知の箇所から姿勢の復元を行った結果のN37E84Wに変更した。

研磨片作製範囲



保護管に覆われて洗浄できなかった範囲が下になるように水平に収納し、コア保管時の姿勢を再現している。